

平和運動フォーラム石狩地域協議会

平和運動フォーラム
石狩地域協議会

〒060-0806
札幌市北区北6西7

村上 真仁

TEL:011-747-1880

再稼動、うそのかたまり



青森県反核実行委員会は4月7日、青森市で第27回反核原発の集会を開き、核燃サイクル中止や脱原発を訴えた。この集会は同実行委員会や原水禁、原子力資料情報室などが主催。1985年に当時の北村知事が再処理施設の立地受入を表明した4月9日前後に毎年開いている。



の西尾漢共同代表は、六ヶ所再処理工場について「稼動開始の時期は、今後もずらずと先延ばしされる。われわれがここで核燃サイクル事業そのものをとめなければならぬ」と呼び掛けた。

や経済性を理由に再稼動を進めようとしている。うそで固め

るやり方にだまされてはいけない」と訴え、県反核実行委の奈良岡事務局長も「東京電力福島第1原子力発電所事故の検証も中途での再稼動は亡国への道だ」

と厳しく批判した。続いて、脱原発と六ヶ所再処理工場の本格稼動阻止などを求めていくとした集会アピールを採択、参加者はガンバロー三唱で拳を振り上げた。集会終了後、シュプレヒコールを上げながら、中心街をデモ行進し、市民民にアピールした。

「希望の観測でやっている事業なのか」などの質問があったが、原発側は、廃棄物がしばらく高温状態であり、現時点で直ちに処理できるものではなく、今後はあくまで政府方針などによりながら模索していくとの回答に終始した。

施設撤去が 一番の安全対策

前日の集会继续して行われたファイルドワークでは、前段、参加者全員が日本原燃本社前において開催された抗議集会に参加した。この集会には、全国各地から約300名が最終し、冒頭の原水禁藤本事務局長の挨拶に続き、自治労青年部から「原発がなくならない社会に向けて、もう一度取り組んでいく」との決意が述べられた。また、核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団山田清彦事務



山田 清彦事務局長

局長は「この施設上空から訓練の米軍戦闘機がたびたび飛んでいる」と述べ、施設管理上の危険性を指摘した。さらには原子力防災について、「有事の際、放射能被害は福島どころではない、防災強化ではなく、施設撤去が一番の安全対策」と述べ、改めて施設の撤去を訴えた。

最後に、「再処理は直ちにやめろ！」とシュプレヒコールで声をあげた。集会終了後、六ヶ所原燃PRセンターに向かい、施設内を見学、日本原燃職員などから施設概要や核燃サイクルなどの説明を受けた。

参加者からは、高レベル廃棄物の処理について「処分場が見つかっていないなかで、廃棄物をどう

この集会には、全国から約1150人が参加し、原発の再稼動に反対し、脱原発をすすめることや使用済核燃料の再処理事業からの撤退を訴えた。



核燃サイクル廃止を！
デモ行進する参加者

実行委員会三上委員長は開会あいさつで「反核燃、反原発の闘いを、確信と怒りを込めて全力で担い、進めていく」と力強く決意を述べた。原子力資料情報室

「メシ食つために反対運動などできない」現地の説明でこんな話がありました。疲弊する地域をどうやって再生するか？脱原発とともに皆で考えねばなりません(む)



原燃PRセンターで説明を聞く参加者

○事務局だより○

「メシ食つために反対運動などできない」現地の説明でこんな話がありました。疲弊する地域をどうやって再生するか？脱原発とともに皆で考えねばなりません(む)